
日本地球化学会ニュース

No .178

2004 .8 .15

主な記事

●学会記事

- 2004年度日本地球化学会年会のお知らせ（最終案内・プログラム）
 - 緊急連絡（日本学会事務センターについて）
 - “地球化学” 大健闘 2 題
 - 「地球化学」特集号原稿募集のお知らせ
 - 日産科学賞・猿橋賞等推薦依頼
 - 鳥居基金実施報告
 - 評議員会，研連議事録
- ### ●その他のシンポジウム，人事公募等の各種情報のお知らせ
- 書評
 - 日本学術会議 地球化学・宇宙化学研連からのアンケート

日本地球化学会のホームページが新しくなりました

URL アドレスは，<http://www.geochem.jp/>です。

より見やすく分かりやすくを目指しております。

研究助成，シンポジウム，人事公募等の各種情報は随時更新しておりますのでそちらもご覧ください。

会員の皆さまのご意見をお待ちしております。

2004年度(第51回)
日本地球化学会年会のお知らせ(3)

主催：日本地球化学会

共催：日本化学会

後援：静岡県，静岡市，焼津市，各教育委員会，静岡
大学

会期：2004年9月20日(月)～9月22日(水)

会場：静岡大学静岡キャンパス共通教育棟，大学会館
(静岡市大谷836)

JR 静岡駅から東に約4 kmの日本平丘陵の裾
にあります。静岡駅からバスで約20分です(地
図を参照してください)。

内容：課題講演，一般講演(ポスターセッションを含
む)，総会，学会賞等受賞講演

日本地球化学会公開講演会：駿河湾から地球が見える

日時：9月19日(日) 13:00～15:00

場所：グランシップ6階 交流ホール

JR 東静岡駅すぐ

課題講演1 アラユルニウム地球化学 すべての元
素・同位体に同等な証拠提出能力を認め
る地球化学

課題講演2 大気エアロゾルと前駆体の地球化学

課題講演3 地下生物圏の地球化学

課題講演4 海洋の微量元素・同位体マッピングによ
る生物地球化学サイクルの解明

一般講演会発表分野：大気/降水，岩石/地殻，鉱
床，有機物，生物，陸水，温泉/熱水，地球外物質，
海洋堆積物，環境，その他

一般講演会発表形式：

口頭発表：討論を含め15分。多くの方が発表できるよ
うに，1人1件といたします。2件目からは，ポス
タセッションに申し込み願います。

口頭発表では，PC プロジェクタ1台とOHP 1
台が使用可能です。口頭発表で，PC プロジェク
ターを使用する方は，ご自分のコンピューターを持
参してください。なお，事前に，正常に作動するか
どうかをコンピュータールームでお試してください。

ポスタセッション：ポスタ面積は 横120cm×縦150cm

9時～17時，コアタイムは，13:00～14:00

総会： 9月21日(火) 14:00～15:30

学会賞等受賞講演：9月21日(火) 15:30～17:30

懇親会： 9月21日(火) 18:00～20:00

場所：静岡大学生協 第2食堂

参加登録費，懇親会参加費等

1：参加登録費(講演要旨集1部と送料を含む)予約
申込は2004年9月1日まで)

会員：5,000円，学生会員：3,000円，

会員外：7,000円，会員外学生：4,000円

当日受付：会員：6,000円，学生会員：4,000円，

会員外：8,000円，会員外学生：5,000円

2：懇親会参加費 予約申込は2004年9月1日まで)

会員/会員外：5,000円，学生会員/会員外：

3,000円，当日：会員/会員外6,000円，学生会員/

会員外：4,000円

3：講演要旨集(当日販売)：3,000円/部(郵送の場
合：3,500円/部)

4：参加登録費，懇親会参加費，講演要旨集代金の支
払い方法

参加申し込みをいただいた後，静岡大学生協から
請求書と郵便振り替え用紙をお送りいたします。所
定の日時までに郵便振替にて送金してください。

(郵便振替受領書をもって領収書といたします。別
途領収書を必要とする場合，大会当日に受付に申し
出てください)

郵便振替口座：00810 1 98569

加入者名：静岡大学生生活協同組合予約注文センター

参加申込等の締切等

講演申し込み締切 2004年6月30日(水)

14:00まで(終了)

講演要旨申し込み締切 2004年8月4日(水)

14:00まで(終了)

年会参加申し込みの締切 2004年9月1日(水)

14:00まで

参加申込は，日本地球化学会ホームページ(<http://www.geochem.jp>)または，年会ホームページ(<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~s4nenkai>)より，参加予約
申込の仕方にアクセスして，参加予約申込書(PDF
ファイル形式)を印刷し，ファックスで生協に申し込
んでください。

上記の申込書を使って，旅行・宿泊の手配を静岡大
学生協に依頼をすることができます。なお，静岡市内
のホテル/旅館等をご利用いただくと，静岡市から主

催者に補助金が支払われます。公共の宿泊施設（生協を通して申込んだ方を除く）をご利用いただいた方は、宿泊アンケート用紙に必要事項を記入し、会場に設けたポストに投函してください。用紙は、請求書とともにお送りする他に、会場での受付のときお渡しいたします。ご協力をお願いいたします。

保育室：乳幼児・児童を同伴する大会参加者のために、大会会期中、保育室を設けます。ご希望の方は、参加予約申込書に必要な項目を記入の上、お送りください。保護者同伴でベビーシッターを頼まずに部屋の使用を希望する方もご相談下さい。

お弁当：会期中、昼食のお弁当の申込ができます。ご希望の方は、参加予約申込書に必要な項目を記入の上お送りください。

年会問い合わせ先

講演申込・講演要旨受付 米田成一・小林貴之

Tel : 03 3364 7142 , Fax : 03 3364 7104

E-mail: nenkai 2004@geochem.jp

年会連絡先

〒422 8529 静岡市大谷836

静岡大学理学部生物地球環境科学科内

日本地球化学会2004年会実行委員会

和田秀樹 WADA, Hideki (実行委員長)

Tel : 054 238 4791 , Fax : 054 238 0491

E-mail: sehwada@ipc.shizuoka.ac.jp

石川剛志 ISHIKAWA, Tsuyoshi (情報担当)

Tel : 054 238 4801 , Fax : 054 238 0491

E-mail: setishi@ipc.shizuoka.ac.jp

サティッシュ = クマール エム .

SATISH-KUMAR M. (経理 / 会場)

Tel : 054 238 508 , Fax : 054 238 0491

E-mail: smsatis@ipc.shizuoka.ac.jp

静岡大学生生活協同組合年会担当係 青木康典

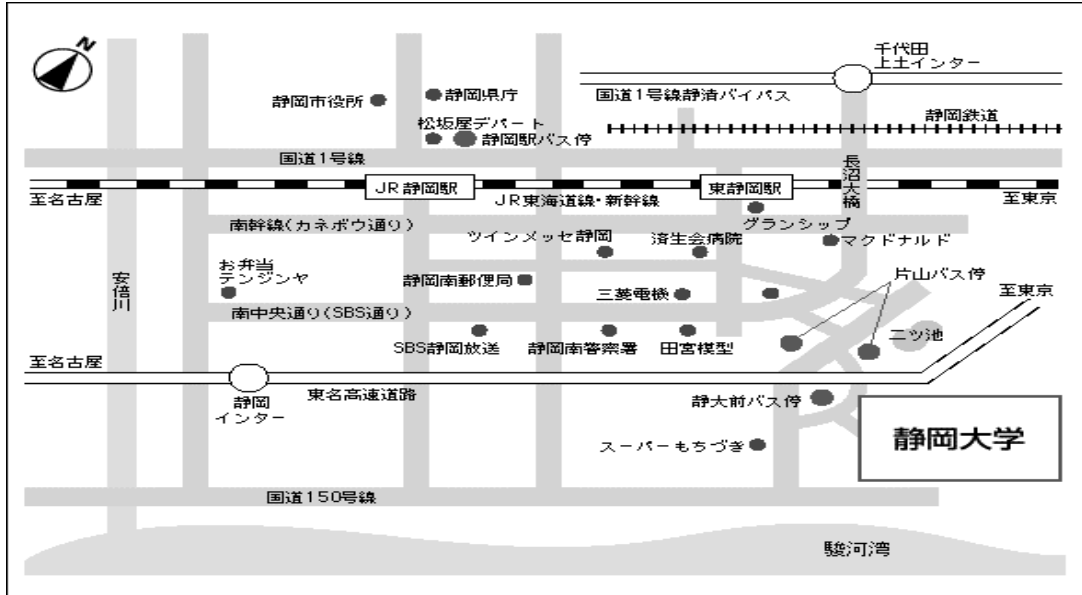
Tel : 054 237 1160 , Fax : 054 237 8440

E-mail: y-aoki@coop.shizuoka.ac.jp

会場へのアクセス方法（所要時間はあくまでも目安です。）

バス：JR 静岡駅前（エクセルワード静岡ビル前）の静岡鉄道バス13番乗場から静岡大学行き又は大谷（おおや）行きに乘車し静岡大前又は片山下車，約25分，280円，日中1時間に8本運行，午前利用はすべて静岡大前で下車可。午後利用の場合，大谷行きは片山で下車。

タクシー：静岡駅から約15分，料金は約1,500円



キャンパスマップ



平成16年8月11日

日本地球化学会会員各位

会長 田中 剛

緊急連絡

突然のことですが、日本地球化学会が業務委託していました日本学会事務センターは、民事再生手続きを申請しましたが却下され、8月9日に保全管理命令が出されました。これにより学会事務センターが行っていた日本地球化学会の事務取り扱いが完全に停止しました。

日本地球化学会執行部では、学会事務センターで行っていた業務が滞らないよう全力を尽くしております。確定次第、随時電子ニュースなどでお知らせいたしますが、さまざまな問い合わせ（入退会など）は暫定的に、下記学会庶務で受け付けいたします。

464-8602 名古屋市千種区不老町 名古屋大学環境学研究科
地球惑星科学科気付 日本地球化学会庶務 山本鋼志

TEL:052-789-2522

FAX: 052-789-2522

e-mail: shomu@geochem.jp

今後、日本学会事務センターへの送金などはなされないようお願い致します。また、7月16日付けの電子ニュースで学会事務センターが継続に向かうような見解を公表しましたが、不明をおわびいたします。

以上

《“地球化学”大健闘2題》

「最新 ISI Citation Reports 2003 でGJが大躍進」
表記統計でGJは2002年度の引用件数494件 Impact Factor 0.696から2003年度は、引用件数639件 Impact Factor 0.813と大幅増加しました。

他誌との比較など詳細は、皆様のサイトからご確認ください。

現在、GJへの投稿数は大幅に伸びており、2004年度内に100件を超えるのは確実な見通しです。Goldschmidt 2004コペンハーゲンでも、展示したCDは見る間にさばけ、欧州諸国のGJへの関心はとても大きいようでした。

「科学研究費申請件数121件に回復」

一昨年の細目「地球宇宙化学」申請件数は、103件まで落ち込み、分科“地球惑星科学”で最下位でしたが、昨年申請いただいた申請件数は、121件とやや回復しました(学振HP)。それでもその前の145件にはまだ及びません。本年10月の申請時には、もう一踏ん張りをお願いします。 庶務

「地球化学」よりお知らせ

和文誌「地球化学」では、下記の要領で特集号を計画しています。ぜひ奮って論文をお寄せ下さい。

特集号のテーマ：沿岸海底湧水の地球科学(仮題)

論文の範疇：原著論文または総説

原稿の〆切：2004年8月31日(必着)

発行時期(予定)：第39巻1号(2005年3月)

投稿原稿(コピー3部)を私宛にお送り下さい。その際、レヴューワー候補者を4~5名、メールアドレスとともにお知らせ下さい。通常のレヴューを経て、来年1月までに受理された論文を、39巻1号にまとめて掲載したいと思います。「地球化学」の投稿規定は、本誌38巻1号または日本地球化学会ホームページ <http://www.geochem.jp/chikyuu/index.html> をご覧下さい。お問い合わせは下記までお寄せ下さい。

「地球化学」編集委員長 蒲生俊敬

東京大学海洋研究所

〒164 8639 中野区南台1 15 1

Tel : 03 5351 6451, Fax : 03 5351 6452

E-mail: gamo@ori.u-tokyo.ac.jp

日産科学賞推薦依頼について

日産科学振興財団より、日本地球化学会に対して推薦依頼がきています。推薦書は <http://www.nissan-zaidan.or.jp/> からダウンロードできます。推薦理由・業績等をお書きの上、必要書類一式を、9月末日までに庶務幹事(山本鋼志, 名古屋大学 shomu@geochem.jp)にお送り下さい。なお、応募者多数の場合には、学会幹事会で相談の上、順位をつけて一名を推薦させていただきます。

日産科学賞候補者推薦要領

1. 表彰の趣旨

若手・中堅研究者の中から、特に優れた業績を上げておられ、さらに今後発展の可能性が大である方を表彰することを通して、学術文化の向上発展に貢献することを目的としております。

2. 推薦基準

自然科学分野(人文・社会科学分野との複合領域を含む)において、以下に示すような学術文化の向上発展に大きな貢献をした、わが国の公的研究機関に所属する新進気鋭の研究者とします。

a) 学術研究における重要な発見

b) 新しい研究分野の開拓

今年度の対象の研究分野は『環境科学分野』に限定致します。

注：原則個人表彰とする(推薦するプロジェクトで複数の研究者が対象となる場合でも扱いは1件)

3. 推薦依頼数

1名

4. 賞の内容

正賞...賞状,

副賞...賞金500万円(用途は自由ですが、一時所得として後日確定申告が必要)

5. 推薦手続

所定の用紙に必要な事項をご記入のうえ、1部(原紙)を当財団にご送付下さい。

6. 推薦期間

平成16年8月1日~平成16年10月15日 必着

7. 審査選考

当財団の選考委員会にて審査し、平成17年2月開催の理事会にて決定後、結果をご報告いたします。

8. 褒賞人員

原則として1名

9. その他

賞の贈呈は平成17年2月を予定しております。

**2005年度女性科学者に明るい未来をの会
「猿橋賞」および「奨励賞」の推薦依頼**

女性科学者に明るい未来をの会会長 古在由秀

記

女性科学者に明るい未来をの会より、「猿橋賞」および「奨励賞」候補者の推薦を依頼します。

下記の要領で応募して下さい。募集内容、応募用紙などは各学会事務局に送付してありますが、電子メールでお問合わせ下さればお送りします。

1. 猿橋賞

対象：推薦締切日に50才未満で、自然科学の分野で、
顕著な研究業績を収めた女性科学者
表彰内容：賞状、副賞として賞金30万円、毎年1件
(1名)

2. 奨励賞

対象：推薦締切日に35才未満で、自然科学の分野で、
優れた研究業績を挙げ将来の発展が期待される
研究者
表彰内容：賞状、副賞として賞金10万円、毎年1件
(1名)

3. 締切日：2004年11月30日

応募方法：所定の用紙に、推薦者、候補者略歴、推薦理由、研究業績などを記入し、下記のあて先へ送付して下さい。

応募先：

〒166 0002 東京都杉並区高円寺4 29 2 217
「女性科学者に明るい未来をの会」
電子メールによる問合せ先:saruhasi@mail2.accs.ne

**平成16年度(第26回)沖縄研究奨励賞
推薦応募について**

財団法人沖縄協会会長 小玉正任

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、本年度の沖縄研究奨励賞は、沖縄研究奨励賞規則に基づき、下記の日程により実施いたします。つきましては、適格と認められる候補者をご推薦賜りますようお願い申し上げます。

記

推薦応募開始 平成16年7月15日(当日消印から有効)
推薦応募締切 平成16年9月30日(当日消印まで有効)
授賞式・受賞記念講演及び祝賀会 平成17年1月20日
(那覇市内のパシフィックホテル沖縄で開催)

[応募書類の送付先及びお問い合わせ]

〒100 0013 東京都千代田区霞が関3 6 15
グローリアビル7F

(財)沖縄協会「沖縄研究奨励賞」担当

石坂蔵之助

Tel : 03 3580 0641 , Fax : 03 3597 5854

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/okinawakyoukai/>

E-mail: fvgm0090@mb.infoweb.ne.jp

**2003年度第2回「鳥居基金」
助成実施報告(TE 37)**

氏名(所属): 鄭国東(広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻)

助成: 海外渡航(ブラジル)

課題: IX International Symposium on Landslides
に参加発表(2004年6月28日~7月2日)

提出日: 2004年7月15日

私は2004年6月28日~7月2日にかけて、ブラジルのRio de Janeiroにて開催されたIX International Symposium on Landslides(第9回地すべり国際シンポジウム)に参加し、研究論文の口頭発表を行った。本学会には、ブラジル、イタリア、カナダ、スイス等の38カ国から376人が参加した。学生はブラジル人以外で、24人があった。若い地すべり研究者はあまり多くないが、今回の学会には世界中から若い研究者が多数参加し、良い兆しであると感じた。

今回の学会では、250本の論文が受理され、Taylor & Francis Groupから出版されるLandslides: Evaluation and Stabilizationに掲載された。その中の66篇が学会で口頭発表された。幸いにも、私たちの論文は学会で口頭発表させて頂いた。今回の学会の会期は5日間で、現場計測と室内試験、地すべり活動機構、土石流及び斜面安定技術などのセッションに分かれて議論が行われた。学会期間中には、日帰りの野外巡検が行われた。また、学会終了後には、三日間の野外巡検

が行われた。

地すべりは典型的な地質災害の一つであり、突発的に発生するので、人的及び社会的損失を招く。地すべり発生メカニズムの解明とその防止工事は、政府、民間レベル、科学者及び技術者により長期間に渡り行われてきた。しかし、これまでの研究は地すべりの物理的及び力学的特性にのみに注目したもので、地球化学手法による研究例は非常に少ない。

私たちが富山県の第三紀層地すべり地の断面を調べたところ、地すべり粘土の中の二価鉄が崩積土と基盤岩の中の二価鉄よりも多いことが分かった。これは、地すべり面が還元的条件にあることを意味している。特に注目すべき点は、地すべり面粘土中に、新生鉱物として黄鉄鉱が存在していることである。そこで、地すべり面粘土層が還元条件であるか否かを確認した。その結果、地すべり面地下水のpHは7.0よりも高いが、周辺の地表水のpHは6.0より低く、地すべり面の地下水が弱アルカリ性であることが判明した。

第三紀層地すべりの地すべり面内の弱アルカリ性強還元環境は独特かつ重要である。何故なら、この種の地球化学的条件は、恐らく地すべり面粘土、特にスメクタイトの生成と蓄積に適するからである。スメクタイトは水で飽和した時に容易に塑性変形し、すべり面粘土の粘度が減少し、滑動を引き起こす。この第三紀層地すべりでの鉄のスペシエーションとpH値に関する研究結果から、私は「自閉概念」を提案した。この概念は地すべりの進行を管理する上で有用であると考える。

私たちの論文を学会で発表したところ、多くの学会参加者に注目され、カナダ、ブラジル及びイタリア人から3つの質問と四つのコメントを頂いた。その内容は、おおよそ3つに分類され、1)地すべり面中での地球化学的反応の方向は？、2)地すべり活動の判断にどう地球化学的手法を用いるか？、及び3)地すべり地分布の地球化学的素因の潜在的影響は？である。セッション後、5人以上の人が私のところへ議論を行いに来ました。また、東京農工大学の中村教授からは、「地すべり面粘土の地球化学的研究をこれからも続けて下さい」と励ましを頂きました。なお、次回第10回地すべり国際シンポジウムは2008年に中国の西安で開催される予定です。

日本地球化学会2004年度 第1回評議員会議事録

日時：2004年2月14日(土) 13:00~17:10

場所：東京大学・山上会館

出席者：田中剛会長・松田准一副会長・山本鋼志・鍵裕之・中井俊一・木多紀子・赤木右・蒲生俊敬(以上幹事)、佐野有司・北逸郎・千葉仁・南川雅男・和田秀樹・塚本尚義・増澤敏行・奈良岡浩・宗林由樹・川幡穂高・横内陽子・河村公隆・海老原充・清水洋・長尾敬介(以上評議員)

1. 追加評議員の承認

蒲生編集幹事(地球化学)を追加評議員として承認した。

2. 2003年第4回評議員会議事録の承認

3. 報告事項

3.1 庶務(山本幹事):【庶務一般】学会賞等受賞候補者推薦依頼公示(2004.1.31締切)学会賞4件3名・奨励賞6件の推薦 清水委員長へ;「地球化学」Vol.38の広告依頼(2004.1.31締切)現在7社からの申込;「学会事務センターとの契約」昨年までと同じ契約内容で更新。【研究助成等】2004年度第1回鳥居基金助成の募集(2004.1.31締切, ニュース・HPに掲載)6名応募(国内研究集会参加費3名, 海外渡航費3名) 長尾委員長へ【後援・共催等】「IMA 2006 Kobe(7/23~28, 2006)後援」【幹事会】2004年2月7日13:00~17:00東京大学山上会館で開催。出席者:田中会長, 松田副会長, 鍵, 中井, 木多, 赤木, 米田, 山本各幹事。第1回評議員会の議事内容について整理した。

3.2 会員(中井幹事):【他学会における海外会員への対応】資源地質学会・地震学会・火山学会の海外会員に対する対応の説明を行った。資源地質学会のみ, 海外会員を「購読会員」とし, 選挙権・被選挙権を与えていない。

3.3 会計(鍵幹事):なし

3.4 編集

3.4.1 GJ(赤木幹事):電子投稿の促進を目的とした規定改正を行った。委員長を含めて40名の編集委員会体制で今後編集にあたり, 1編当たり5,000円で投稿論文の英語の校閲のシステム導入。さらに, 投稿規定のページに会員応募の書類をダウンロード

するためのアドレスを掲載し、会員アプリケーションフォームはNo.1のみに挟み込む旨の報告。

前年度編集委員長の松田副会長より、Vol 37 No.6を68ページで12月に発行、Vol 37は総ページ数694ページとなった。このページ数に、申請用紙等を加えた総ページが許容ページ数を1ページオーバーし、会長名で学術振興会に理由書を提出した。GJ賞は、Goldschmidt 2004が6月開催のため、受賞者を3月中に決定する必要があり、電子メールで承認することとした。

佐野評議員より、野崎先生の特集号について16編を受け付けたと報告。100ページを超える分についてはオーバーチャージを課す。

3.4.2 地球化学(蒲生幹事): 第37巻第4号を12月に発行した。第37巻4号の総ページは183ページとなった。ただし、原著論文が2編にとどまり、第36巻の8編に比べて掲載数が少なかった。投稿原稿は13編で、昨年に比べて、横ばいである。

3.4.3 ニュース・HP(米田幹事): 各幹事に専用電子メールアドレスを設定し、送られた電子メールを各幹事に転送するシステムを作った。これは、幹事の交代等の際に混乱を避けるためである。

ニュース・HPも、ホームページの維持ならびにホームページの国際化に対応するために、編集委員会体制を設けることとした。委員長には米田幹事が担当する。HP国際化担当の古川さんには、学会費の倍額をお支払いし、必要部分についてのみ、英文化して頂くこととする。

3.5 行事:【年会】(和田評議員より、和田評議員)年会申し込み等のスケジュールはほぼ例年通りとし、6月30日講演申し込み、7月28日講演要旨申し込み、9月1日参加申し込み締め切りとする。課題討論の課題ならびに研究集会の申し込みは4月30日締め切りとする。

3.6 委員会: なし

3.7 学術会議

清水評議員より第19期第1回地球化学・宇宙化学研連議事録(案)に基づいて説明がなされた。蒲生評議員より第19期第1回海洋科学研連議事録(案)に基づいて説明がなされた。坂本評議員より第19期第1回惑星科学研連議事録(案)に基づいて説明がなされた。他の研連については報告なし。

3.8 連絡会等

「理工学における同位元素・放射線研究発表運営

委員会」理工学における同位元素・放射線研究発表会(7/7~9, 2004, 日本青年館)の共催。「原子力総合シンポジウム運営委員会」第42回原子力総合シンポジウム(5/27~28, 千代田区立内幸町ホール)の共催(共催金5,000円)。

地球惑星科学合同大会運営機構「地学教育」委員会(世話人代表中井仁氏)へ本会からの委員として、高江洲瑩会員と瀧上豊会員を推薦した。旅費等が必要な場合は、実費を支給することとする。

3.9 その他

以下の3件について意見交換をおこなった。

3.9.1 国際化の具体策について意見を交換した。そのなかで、会員が個別に進めているアジア オセアニア地域との共同研究が相当数あることが予想されるので、それら間での連携はどうか? ヨーロッパ地球化学連合の会則はどのような内容か? 国際化の窓としての学会のホームページをよりわかりやすくしてほしい。などの意見が出された。

3.9.2 評議員会に依頼されたゴールドシュミット基金の運営方法について。

3.9.3 学会の繰り越し金について。

4. 審議事項

4.1 各種委員会(松田副会長)

2004年~2005年度の名誉会員推薦委員会委員と将来計画委員会委員の構成を松田委員長の提案(提案部分を書く)どおり了承した。

4.2 入退会(2003年11月1日から2003年12月31日)ならびに除名・シニア会員への変更を以下の通り承認した。(敬称略):

【入会】正会員1名(学生会員1名)

(12月)2304 帆足雅通 HOASHI Masamichi
鹿児島大学大学院理工学研究科

【除名】正会員23名(一般正会員9名,学生会員2名,海外会員12名)

川合将文, 浜野信行, 前野茂人, HEDENQUIST Jefferey W., 西岡澄濃, 大和田淳子, 梶原義照, 下川修司, 新城則子, 黒木紀子, 猪股弥生, 伊藤司郎, 内藤耕, MAMBO Vikandy Silusawa, PARADA Miguel, CHOI Seon Gyu, ELSENHEIMER Donald W., 李鐘益, MOKOLENSANG Jeffrie, HISHIGSUREN E., CHEONG Chang Sik, SIDDAIAH Neelam Siva, 立川和代

【変更】

(11月)学生会員 一般正会員 1名 2081 山田和芳

(12月)学生会員 一般正会員 1名 1782 大槻晃久

	正会員 (一般正会員) (学生)	(シニア)	賛助会員	名誉会員	計	(在外)	
2003.11	1010	(874)	(127)	(9)	13	13	1036 (55)
入会	1	(0)	(1)				1
退会							0
除名	23	(20)	(3)				23 (12)
変更		(+2)	(-2)				0
2003.3	988	(856)	(123)	(9)	13	13	1014 (39)

	正会員 (一般正会員) (学生)	(シニア)	賛助会員	名誉会員	計	(在外)	
2003.1	997	(892)	(96)	(9)	17	13	1027 (55)
入会	65	(13)	(52)				65 (1)
退会	51	(42)	(9)		4		55
除名	23	(20)	(3)				23 (12)
変更		(+13)	(-13)				0
2003.12	988	(856)	(123)	(9)	13	13	1014 (39)

【会員種別変更の申請】

一般正会員 シニア会員 1名 067 928 0269
 粕 武 生年月日 1933年9月19日, 入会1967年

【除名規定について】

評議員会(2003年11月29日)で2年を超える会費滞納を除籍にすることが決まったが、そのニュースへのアナウンスには、厳しくしたことでなく、会のメリットの面も強調して、あわせて書くことにする。また、一度に2年迄に短くすると、混乱が生じることもありえるので、段階的に短くしていくこと、また3~4年の滞納者名を随時評議員会で周知し、身近な評議員から会費の完納を働きかけるなどを行うこととした。

4.3 学会誌バックナンバーの保存について

学会事務センターの保管棚は、180cm幅で年間18,000円の使用料がかかるので、保管物品の整理が望まれる。Geochemical Journal および地球化学は、35巻(2001年)までは各号20冊、それ以降は50冊、ニュースは、地球化学に合体する以前のを各10冊を保存し。2001年の学習院大学の年会会場で会員に無料配布したように、静岡大学での年会の折、会員に無償配布することとした。また、保管用のGeochemical Journal および地球化学は早急に製本し、当面は担当の編集委員長のところで保管し、最終的には保管棚の空き具合を見ながら学会事務センターに移管する方向で、作業を進めることとした。

4.4 科研費審査員選挙について

地球化学・宇宙化学研連及び鉱物学研連からの依

頼に基づき、平成17年度科学研究費分科「地球惑星科学」2段審査委員3名、細目「地球宇宙化学」1段審査委員9名、細目「岩石・鉱物・鉱床」1段審査委員2名の推薦作業を行った。また、推薦依頼が予想される分科「環境学」第2段審査委員および細目「環境動態解析」第1段審査委員候補者それぞれ3名の選出をあわせて行った。

分科「地球惑星科学」2段審査委員3名、細目「地球宇宙化学」1段審査委員9名、の選挙は、固体地球化学分野と大気水圏生物圏分野にわけて選挙を行った。

選挙結果は、以下の通りである(得票数は略)。得票上位から、現在委員をされていない方を地球化学会から推薦を行う。この調整は田中会長と松田副会長が担当する。

【細目「宇宙地球化学」第一段審査委員候補者】

(固体地球関係) 中井俊一・長尾敬介・日高洋・山本鋼志・千葉仁・米田成一・北逸郎(大気水圏生物圏関係) 宗林由樹・奈良岡浩・赤木右・増澤敏行・植松光夫・石橋純一郎・塚本尚義

【分科「地球惑星科学」第二段審査委員候補者】

(固体地球関係) 田中剛・海老原充・松田准一・長尾敬介・塚本尚義(大気水圏生物圏関係) 乗木新一郎・河村公隆・吉田尚弘・南川雅男・川幡穂高

【細目「環境動態解析」第一段審査委員候補者】

蒲生俊敬・植松光夫・赤木右・横内陽子

【分科「環境学」第二段審査委員候補者】

赤木右・河村公隆・蒲生俊敬・植松光男

【細目「鉱床」第一段審査委員候補者】

千葉仁・石橋純一郎・富樫茂子・篠原宏志

5. 今後の幹事会・評議員会の日程

2004年度第2回幹事会: 5月22日(土) 13時から, 東大山上会館

2004年度第2回評議員会: 5月29日(土) 13時から, 名大環境学総合研究棟

2004年度第3回幹事会: 9月11日(土) 13時から, 東大山上会館

2004年度第3回評議員会: 9月19日(日) 16時頃から, 静岡市

第19期第3回地球化学・宇宙化学 研究連絡委員会議事録

日時: 2004年5月28日(月) 13:30~16:30

場所: 日本学術会議第6部会議室(6階)

出席者：山中高光（会員），海老原充（地球化学），佐野有司（地球化学），清水洋（地球化学），下山晃（化学），鈴木徳行（地質），長尾敬介（地球化学）

欠席者：蒲生俊敬（地球化学），留岡和重（鉱物），中村栄三（岩鉱），平原和郎（地球物理研連）

報告事項

1. 学術会議関係

(1) 第142回総会（平成16年4月19～21日開催）（山中会員）

日本学術会議法の一部を改正する法律の概要についての報告があった。

(i) 会員制度の改革

(a) 会員選考方法の変更

登録学術研究団体を基礎とした推薦制から，日本学術会議が会員候補者（210人程度）を選考する方法に変更する。初回会員のみ，日本学術会議会員候補者選考委員会が選考する。

(b) 定年制の導入・再任の禁止

70歳定年制を導入し，任期を6年として再任を禁止する。

(c) 半数改選制の導入

3年ごとに半数の会員を改選する。

(ii) 内部組織の改革

(a) 部の大括り化

現行の7部制から，「人文科学」，「生命科学」，「理学及び工学」の3部制とする。

(b) 連携会員の新設

研連を廃止し，連携会員を新設する。連携会員は会員と連携して日本学術会議の職務の一部を行う。定年を75歳前後とする。（定員は決めないが，2,300人程度）

(c) 幹事会の設置

総会主義を排除するために，運営審議会を幹事会に改組し，職務・権限の一部の委任を可能とする。

(d) 副会長の増員

会長の補佐機能を強化するために副会長1人を増員し，国際交流・協力に対応する。

(iii) 内閣府への移管

内閣総理大臣の下，総合科学技術会議と連携し，我が国の科学技術の推進に寄与することが求められる。総合科学技術会議は top-down 的に科

学技術政策を形成するのに対し，日本学術会議は従来通り科学者の意見を幅広く集約し，いわば bottom-up 的に政策提言することが期待される。

(iv) 施行日

平成17年10月1日を施行日とする。但し，初回会員の選考に係る部分は交付の日（平成16年4月14日），内閣府への移管に係る部分は平成17年4月1日。今19期研連は，平成17年9月30日を持って終了する。

(2) 第4部会（山中会員）

第4部として，新しい学術会議のあり方に関する議論を行い，以下のような項目について様々な意見が出された。今後他の部会からの意見と摺り合わせて結論を得る予定である。

(i) 新しい日本学術会議と学協会との連携の重要性

(ii) 新会員，連携会員の選出にかかわる考え方

(iii) 文・理のバランス，基礎・応用のバランス

新しい学術会議の3部のそれぞれに基礎と応用をおき，6つの選出枠を設ける。地球科学は基礎に区別されるが，基礎科学の重要性をアピールできるようにすることが重要であろう。

(iv) 連携学協会の認知

何を認知団体の要件とするかを明確にする。

(v) 科学者コミュニティ

複数の学協会に所属する科学者に対して慎重・適切な取り扱いが必要で，各学協会として「有効科学者数」を算出する必要がある。

(vi) 6選出枠の有効科学者数

(iii)の6つの各選出枠を合理的に決めるために，有効科学者数を決める。

(vii) 委員会

委員会を領域別委員会と課題別委員会に分ける。

(viii) 領域別委員会

研連に代わる組織で，3部で約80の領域別委員会を設置する。地球科学系の学協会の数が30を超えており，また，研連数も9つを数える。80の委員会に収まるには，地球科学系は今までより大きなくくりでまとまる必要がある。

(ix) 課題別委員会

会員及び連携会員は，いずれか1つの領域別委員会に所属する他，1つ以上の課題別委員会に所属する。

(3) 第4部WG（平成16年3月29日）（山中会員）

いわゆる研究費予算の構造に関して、現状を確認した。近年の国立研究所、国立大学等の法人化に伴い、研究者間で競争的資金の重要性がますます高まっているが、文科省の科学研究費補助金の額は国の重点分野に対して支出している予算に比べると一桁以上少なく、きわめて貧弱であることを強く認識し、この比率を高めるための予算獲得、配分を目指す必要がある。

- (4) 平成17年度科学研究費補助金の審査委員として適切な研究者の情報提供について(山中会員)

科研費分科「地球惑星科学」の2段審査員の推薦を行った。8人(4名継続、4名新規)の審査員のうち新規4名(地球物理系、地球科学系各2名)分に対して、候補者20名を学術振興会に推薦した。

- (5) SPring 8の課金問題(山中会員)

本年度より、SPring 8での実験に対して、施設の利用料金が課されることになり、また、旅費の支払いも停止された。この問題が今後大型施設の共同利用制度や大学附置研の全国共同利用制度の見直しに波及する恐れがあり、学術会議に小委員会を設置し、問題解決に向けて方策を検討することになった。

- (6) 総会への研究連絡委員会報告の提出(清水委員長)

第142回総会において地球化学・宇宙化学研連の活動を報告するため、過去1年間の活動をまとめた資料を作成し、事務局宛に提出した。

2. その他

- (1) 本研連の国際対応について(清水委員長)

本研連が対応研連となっている国際地球化学宇宙化学連合(International Association of Geochemistry and Cosmochemistry, IAGC)の評議員が本年改選される。日本からの候補者が選出される見込みであること報告された。

- (2) Goldschmidt 2004の開催について(清水委員長)

昨年の倉敷に続いて、本年はコペンハーゲンでゴールドシュミット国際会議2004が開催される。この会議で日本地球化学会は共催団体となり、全体会議で地球化学会の英文雑誌 Geochemical Journal の論文賞の表彰が行われる。

審議事項

1. 第19期の活動について

19期での活動計画として、次の2つを取り上げる

ことを了承した。

- 1) 国際対応、特にアジアにおける地球化学研究者の連携強化

- 2) 地球化学における環境学

さしあたり、1)に関して活動を行うことにし、まず実態をつかむために日本の地球化学分野の研究者にアンケート調査を実施することを決めた。アンケートでは現状を含めた連携のあり方と、将来模索されうる組織化の2つの視点を区別して意向を聞く。アンケートの原案が清水委員長から示され、今後メール等で意見交換しながら修正版を完成させ、できるだけ早く実施に移すことが了承された。

一方、2)の課題に対してどのように取り組むかに関しては、具体的提案を募りつつ、順次実施に移すことにした。まず、前18期で行った「環境学における地球化学」と題するアンケートを、地球化学会の会員に対して行うことが了承された。18期でのアンケート対象は環境学分野に属する地球化学以外の専門家であったことから、今回のアンケート結果と前回の結果との間には大きな対比が見られると予想され、有意義な結果が得られるものと期待される。今後この2つの活動方針については地球化学会の評議員会でも議論し、連携しながら積極的な活動を展開することを確認した。

2. その他

特になし。

その他

1. 次回の委員会の日程について

次回の委員会を11月19日午後1時半より開催することを決めた。

平成17年度深海調査研究課題及び乗船研究者の公募について

独立行政法人海洋研究開発機構は、海洋に関する基盤的研究開発の一環として、深海調査研究を推進するにあたり、平成17年度に実施する深海調査研究課題及び乗船研究者を7月20日から8月19日の間公募いたします。詳しくは当海洋研究開発機構のウェブサイト(<http://www.jamstec.go.jp/>)最新情報 What's Newをご覧ください。

平成17年度地球環境観測 研究センター研究員公募

海洋研究開発機構の組織再編により、本年7月1日に地球観測フロンティア研究システムと海洋観測研究部が統合されて地球環境観測研究センターが設立されました。本センターでは、信頼に足る地球環境変動予測を目指し、海洋や大気、陸面での観測を行い、地球環境変動現象の解明に取り組む研究活動を進めています。気候変動観測研究プログラム、水循環観測研究プログラム、地球温暖化情報観測研究プログラム、海洋大循環観測研究プログラムおよび海大陸観測研究計画に参加を希望する優秀な若手の研究員およびポスドク研究員を若干名募集します。

【応募資格】

対象研究プログラムに関連する分野の博士号取得者（採用日までに取得可能なものを含む）。国籍・性別・年齢を問わず。

【雇用期間】

平成17年4月1日 平成18年3月31日（研究の進捗状況等により一年毎更新可能）

【雇用身分】

海洋研究開発機構の任期制職員として受け入れる。

【応募締切】

平成16年8月31日(水) 消印有効

【応募方法】

下記のホームページにて詳細を必ずご確認の上、ご応募下さい。

地球環境観測研究センター

<http://www.jamstec.go.jp/iorgc/>

【問合せ先】

地球環境観測研究センター 人事担当

Email: koubo-iorgc@jamstec.go.jp

北海道大学低温科学研究所附属環オホーツク 観測研究センター助教授または助手公募

記

1. 公募人数：環オホーツク観測研究センター・助教授又は助手1名
2. 研究内容：海洋における生物地球化学または有機地球化学

当研究所は、寒冷圏および低温条件下における科学現象の基礎と応用の研究を目的とする全国共同利用の研究所であり、その中で当該センターは、オ

ホーツク海を中心に周辺陸域、北太平洋、北極圏のいわゆる環オホーツク地域の地球環境における役割について、地球科学的側面および環境科学的側面から総合的に研究することを目指しています。

なお、教育は北海道大学大学院地球環境科学研究科を担当して頂く予定です。

3. 着任時期：平成17年4月1日以降のなるべく早い時期
4. 提出書類：a. 履歴書（連絡先、大学入学以降の学歴、研究・教育歴、学位、受賞歴など）、b. 研究業績目録（査読制度のある学術誌に発表した原著論文、総説、著書、その他などに分ける）、c. 主要論文別刷りあるいはコピー5編以内（研究業績目録に印を付ける）、d. これまでの研究概要と成果（2,000字程度）、e. 着任後の研究計画、研究展望、抱負など（2,000字程度）
5. 公募締切：平成16年11月30日(火) 必着
6. 書類提出先：
〒060 0819 札幌市北区北19条西8丁目
北海道大学低温科学研究所長 本堂武夫
封筒の表に「環オホーツク観測研究センター助教授又は助手応募書類」と朱書し、書留でお送り願います。
7. 情報入手、問い合わせ先：
 - a. 研究所の概要、関連する研究分野のスタッフについては、当研究所のホームページをご覧ください。<http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/>
 - b. 直接の問い合わせ先
北海道大学低温科学研究所 教授 若土正暁
E-mail: masaakiw@lowtem.hokudai.ac.jp
Tel: 011 706 5480, Fax: 011 706 7362
教授 河村公隆
E-mail: kawamura@lowtem.hokudai.ac.jp
Tel: 011 706 5457, Fax: 011 706 7142

第7回メスバウアー分光研究会講演会

主催：日本化学会メスバウアー分光研究会
協賛：日本物理学会、日本アイソトープ協会、日本分析化学会、日本地球化学会、日本鉱物学会、日本放射化学会
会期：11月1日(月) 15時～16時30分
会場：上智大学図書館9階 L 921会議室
〒102 8554 東京都千代田区紀尾井町7 1
最寄駅：・JR「四谷」駅下車 徒歩5分

- ・地下鉄丸の内線「四谷」駅下車 徒歩5分
- ・地下鉄南北線「四谷」駅下車 徒歩5分

Moessbauer mineralogy of soils and rocks at Meridiani Planum and Gusev Crater on Mars and its implications on the history of water on Mars (Johannes Gutenberg-Universität, Inst. Anorganische & Analytische Chemie, Mainz, Germany) G. Klingelhofer

参加費：無料

参加申込先：

〒274 8510 船橋市三山2 2 1 東邦大学

理学部化学科 竹田満洲雄

Tel : 047 472 4175, Fax : 047 475 1855

E-mail: takeda@chem.sci.toho-u.ac.jp

ホームページ

http://www.chem.sci.toho-u.ac.jp/~takahasi/moss/

第26回宇宙ステーション利用計画 ワークショップ

会合名：第26回宇宙ステーション利用計画ワークショップ

開催日時：

平成16年9月7日(火) 10:00~17:30(予定)

9月8日(水) 10:00~17:30(予定)

開催場所：砂防会館 シェーンパッハ・サボー

(〒102 0093 東京都千代田区平河町2 7 5)

会合の内容及び目的：

国際宇宙ステーション (ISS) 参加各国の状況と将来計画、並びに ISS 利用に関する我が国の推進体制、現状、展望等に関して、利用者と一般国民の理解を深め、利用の拡大・多様化を図ると共に、国内外の状況変化への対応方策を議論し、提案された意見を今後の ISS 利用計画に反映する。

主催者名：独立行政法人宇宙航空研究開発機構

共催者名：文部科学省(予定)

後援団体名：総務省(予定)、国土交通省(予定)

参加費：無料

問い合わせ先：

(財)宇宙環境利用推進センター

宇宙実験推進部 担当：佐藤

〒169 8624 東京都新宿区西早稲田3 30 16

Tel : 03 5273 2442, Fax : 03 5273 0705

E-mail: sepd@jsup.or.jp

(参考)

- 宇宙航空研究開発機構ホームページ：

http://www.jaxa.jp

- (財)宇宙環境利用推進センターホームページ：

http://www.jsup.or.jp

書評

「進化する地球惑星システム」

東京大学地球惑星システム科学講座編、

260 pp, 2004, 東京大学出版会

東京大学では、2000年にそれまで地球惑星物理学、地質学、鉱物学、地理学に分かれていた4専攻が統合されて地球惑星科学専攻となり、新たな視点に立って5つの分野が設けられた。そのうちのひとつが、地球惑星システム科学分野である。本書は、その分野に関係した教官たちによって、特にこれから地球惑星科学を学ぼうとしている理科系の教養課程レベルの学生などを対象として、「体系的な地球の見方」とはどのようなものであるかについて研究例を示しながら解説することを目的とした読み物として書かれたことが、まえがきで紹介されている。一方で、本書を通じて地球惑星システム科学の研究分野としての理念や取り組み方、今後の方向性などについて、内外の地球惑星科学関連の同業者仲間にも強くアピールしようという狙いも十分に感じられる。このような意図をもち、現在第一線で活躍している各教官が意気込みをもってそれぞれの対象についての現在の理解の仕方、トピックス、問題点などについて執筆しているので、何もまして書かれた内容の活きのよさが本書の大きな目玉となっている。

構成は12章からなる。そのうち最初の1章「地球惑星システム科学とは何か」、で地球惑星システム科学の内容の定義づけを行い、最後の12章「進化する地球惑星システム科学」では、個別の研究対象について紹介されている他のそれぞれの章について、この分野全体における関連性を説明し、今後の方向性などについての示唆をも含んだ解説となっている。これらの章は、本書の実際のとりまとめの中心となった阿部豊、茅根創、田近英一の3氏により執筆されており、この新しい研究分野に関する概念を把握する上で本書の中で重要な位置づけをもつ。ほかの9章は、各教官の研究対象を中心として、それぞれを体系的な見方で

把握していく解説が試みられている。すなわち、2章「太陽系の原物質とその進化」、3章「地球惑星システムの誕生」、4章「冷却する地球の進化」、5章「スノーボールアース 凍りついた地球」、6章「カンブリア紀における生物の爆発的進化の謎」、7章「二億年の地球のリズム」、8章「天体衝突と地球システム変動」、9章「アイスエイジの気候変動 氷期と間氷期の繰り返し」、10章「地球の水とアジアモンスーン」、11章「地球温暖化に対する生命圏の応答」である。これらの章に関しては、それぞれの研究対象の時間的・空間的スケールが異なり、それに応じて各教官のシステム科学としての対応の仕方についてもやや異同がみられるが、それは新しい分野としての共通認識をつくり上げていく段階ではやむを得ないことでもあろうし、一方では研究者としての個人的見解も反映されていよう。また前後の扉の見返しには、太陽系および地質年代表がつけられ、4つのコラム欄では本文中では解説が不十分であった点についての補足説明がされている。さらに必要と思われる箇所では専門用語についての簡単な解説もつけられており、教養書的なつくりの本ではあっても隅々まで注意をはらって編集されている。

本書は、地球を理解するうえで特にシステムの見方の重要性を強調し、システム構成要素が変動するのに必要な異なった時間的スケールを考慮しながら、そ

れぞれの要素間のシステムとしての相互作用、その結果としてのフィードバック機構やシステムの安定性・不安定性などを認識していく重要性を説いている。ここで取り上げられているスケールリングの問題は、地球惑星科学におけるあらゆる現象について、その時間的スケールばかりでなく、3次元的な空間スケールをも考慮した上で問題を追求していくべき最も重要な前提条件の一つである。それが、特にシステムという切り口で問題設定がされている本書では、そのことを改めて強調することでシステムとサブシステムについての関係を明らかにしようとしている。その結果として、惑星としての地球がシステムとしていかに機能しているかを明らかにしようとしている著者たちの意欲が、本書を通じて伝わってくる。その意味で、地球惑星科学について興味を持つ多くの人々が是非一読して欲しい本である。

なお細かい点ではあるが、見返しの部分や本文中で解説なしに使用されている専門用語が散見されるが（例、FU-Ori 期、バージェス動物群、澄江動物群、ほか）、これらについては簡単な用語解説をつけるかあるいは適宜省略などをしたほうが、初心者にとっては親切であろう。また表紙扉見返しの太陽系年代表は、左右の異なる縦軸に対応するそれぞれの項目がやや分かりにくいので、再版の際にはその表現を改善して欲しい。（兼岡一郎）

**「アジア地域における地球化学・宇宙化学
の連携」及び「地球化学における環境学」
についてのアンケート**

日本学術会議 地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

電子メール版の日本地球化学会ニュース [member : 00026] で下記のアンケートを実施しています。電子メールで8月20日締め切りとしていますが、下記をコピーいただき、御回答を9月3日(金)までに、郵送いただいても結構です。御協力よろしくお願い致します。なお、電子メールでの御回答も、9月3日(金)に延期いたしますので、よろしくお願い致します。

〒739 8526 東広島市鏡山1 3 1
広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻
清水 洋

~~~~~

2004年7月14日

「アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携」及び「地球化学における環境学」についてのアンケート

日本学術会議 地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

日本学術会議地球化学・宇宙化学研究連絡委員会は、日本地球化学会と日本地質学会、日本鉱物学会、日本岩石鉱物鉱床学会、日本化学会、地球物理学研究連絡委員会から選出された委員で構成され、より広い視野から地球化学・宇宙化学の振興を計っています。

日本地球化学会の会員の方々の御協力をいただき、「アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携」と「地球化学における環境学」の2つに関してアンケートを実施し、その結果を本研究連絡委員会活動の参考にさせて頂きたく存じます。アンケート結果のまとめは、日本地球化学会へ報告致します。

御多用中恐縮ですが、geoljimu@sci.hiroshima-u.ac.jp または hiroko@sci.hiroshima-u.ac.jp (広島大学地球惑星システム学専攻事務室、事務担当者) あてに2004年8月20日(金)までに御返送頂きたくお願い致します。

問い合わせ先

〒739 8526 東広島市鏡山1 3 1  
広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻  
清水 洋  
Tel : 082 424 7484  
E-mail: shimizu@geol.sci.hiroshima-u.ac.jp

〒192 0397 東京都八王子市南大沢1 1



東京都立大学大学院理学研究科化学専攻  
海老原 充  
Tel : 0426 77 2553  
E-mail: ebihara-mitsuru@c.metro-u.ac.jp  
〒113 0033 東京都文京区本郷7 3 1  
東京大学大学院理学系研究科地殻化学実験施設  
長尾敬介  
Tel : 03 5841 4621  
E-mail: nagao@eqchem.s.u-tokyo.ac.jp



お答えいただく方の、所属研究機関、年齢、研究分野についてお答え下さい。  
該当部分の回答欄 [ ] に番号を御記入下さい。

a . 所属する研究機関についてお答え下さい。

(1)大学 (2)国公立研究機関(独立行政法人を含む) (3)その他  
回答欄 [ ] (3)のお答えの方の所属 [ ]

b . 回答者の年齢をお答え下さい。

(1)20歳代 (2)30歳代 (3)40歳代 (4)50歳代 (5)60歳代  
(6)70歳代 (7)80歳代以上  
回答欄 [ ]

c . 研究分野をお答え下さい(複数可)。

(1)宇宙・惑星化学 (2)固体地球化学 (3)大気化学 (4)海洋化学  
(5)有機地球化学 (6)環境地球化学 (7)その他 ( )  
回答欄 [ ]



#### 「アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携」についてのアンケート

2003年9月に倉敷で開催した Goldschmidt 2003を契機として、アジア/オセアニアにおける地球化学研究推進を目的として、「アジア/オセアニア地球化学連合の組織化」を促進する声が高まっています。日本学術会議の地球化学・宇宙化学研究連絡委員会では国際協調の観点から、「アジア地域の地球化学・宇宙化学の連携」を、19期の活動の1つとして取り上げています。地球化学・宇宙化学研究連絡委員会における議論の参考として、「アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携」の現状を把握いたしたく、地球化学会会員の方々に、本アンケートに御協力をお願い致します。

#### 「アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携」についてのアンケート

該当部分の回答欄 [ ] に番号を御記入下さい。

「その他」とお答えの場合は、[ ] または ( ) 内にお答えを記入下さい。

回答が難しい設問については、空欄のままでも結構です。

1．国際会議・シンポジウムへの参加の状況をお尋ね致します。

(1)1年に1度以上は出席している (2)数年に1度程度の割合で出席している

(3)ほとんど出席していない (4)その他( )

回答欄 [ ]

2．海外の研究者と共同研究を行なったことがございますか？

(1)ある (2)ない

回答欄 [ ]

3．留学生受け入れの経験がございますか。

(1)ある (2)ない

回答欄 [ ]

(1)の「ある」とお答えの方は受入留学生の人数と国籍をお答え下さい。

[ 名 ] [ 国籍: ]

4．アジア地域の研究者が主体の国際会議・シンポジウムへの参加の状況をお尋ね致します。

(1)1年に1度以上は出席している (2)数年に1度程度の割合で出席している

(3)ほとんど出席していない (4)その他( )

回答欄 [ ]

5．アジア地域の研究者が主たる参加者である国際会議または国際シンポジウムを開催したことがございますか？

(1)ある (2)ない

回答欄 [ ]

6．アジア地域の研究者と共同研究を行なったことがございますか？

(1)ある (2)ない

回答欄 [ ]

5または6について「ある」とお答えいただいた方へ7以下の該当する問いにお答え下さい。

5および6について「ない」とお答えいただいた方へ7から14をとばして、15以下の問いにお答え下さい。

(ただし、7から14の該当する項目にお答えいただくことは差し支えございません。)

7．留学生受入の経験がある場合に、共同研究または国際会議／シンポジウム開催の契機となりましたか？

(1)なった (2)ならなかった (3)留学生受入の経験がない

(4)その他( )

回答欄

共同研究の場合 [ ]  
国際会議 / シンポジウムの場合 [ ]

8. 共同研究または国際会議 / シンポジウムの相手方の国名をお答え下さい(複数可)。

(1)韓国 (2)中国 (3)台湾 (4)フィリピン (5)インドネシア  
(6)インド (7)その他( )

回答欄

共同研究の場合 [ ]  
国際会議 / シンポジウムの場合 [ ]

9. 共同研究または国際会議 / シンポジウムの経費についてお答え下さい(複数可)。

(1)科学研究費補助金 (2)振興調整費  
(3)文部科学省関連予算(前記(1)と(2)を除く) (4)環境省関連予算  
(5)経済産業省関連予算 (6)各研究機関における通常の研究費  
(7)その他( )

回答欄

共同研究の場合 [ ]  
国際会議 / シンポジウムの場合 [ ]

10. 共同研究の組織についてお答え下さい(複数可)。

(1)個人研究  
(2)研究室単位程度の研究:(人数の概数を記入下さい) )  
(3)複数の研究機関による組織的研究:(人数の概数を記入下さい) )

回答欄 [ ]

11. 国際会議 / シンポジウムの参加者数をお答え下さい。

(1)50名以下 (2)50~100名 (3)100名~300名 (4)300~500名  
(5)500~1,000名 (6)1,000名以上

回答欄 [ ]

12. 共同研究または国際会議 / シンポジウムの継続期間についてお答え下さい(複数可)。

(1)1年以内 (2)1~3年 (3)3~5年 (4)5~10年 (5)10年以上  
(6)その他( )

回答欄

共同研究の場合 [ ]  
国際会議 / シンポジウムの場合 [ ]

13. 共同研究または国際会議 / シンポジウムの実施時期についてお答え下さい(複数可)。

(1)2000年以降 (2)1990年代後半 (3)1990年代前半 (4)1980年代  
(5)その他( )

回答欄

共同研究の場合 [ ]

国際会議 / シンポジウムの場合 [ ]

14. 実施した共同研究または国際会議 / シンポジウムの問題点についてお答え下さい (複数可)

- (1)特に問題点はない (2)予算 (3)コミュニケーション (4)研究内容  
(5)その他 ( )

回答欄

共同研究の場合 [ ]

国際会議 / シンポジウムの場合 [ ]

15. 今後の共同研究または国際会議 / シンポジウムの予定についてお答え下さい (複数可)

- (1)現在実施中の研究を継続する。 (2)共同研究を計画中である。  
(3)機会があれば共同研究を実施する。 (4)今後の実施は考えていない。  
(5)その他 ( )

回答欄

共同研究の場合 [ ]

(1), (2), (3)の場合の相手国または地域 [ ]

国際会議 / シンポジウムの場合 [ ]

(1), (2), (3)の場合の相手国または地域 [ ]

16. 「アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携」推進についてお答え下さい (複数可)

- (1)国際協調の観点から、連携を推進した方が良い。  
(2)研究推進のために、連携を推進した方が良い。  
(3)連携には消極的である。  
(4)連携には無関心である。  
(5)その他 ( )

回答欄 [ ]

17. 「アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携」推進の進め方についてお答え下さい (複数可)

- (1)共同研究の実施により、アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携を進める。  
(2)国際会議 / シンポジウム開催により、アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携を進める。  
(3)「アジア地球化学連合」を組織化し、連携を進める。  
(4)その他 ( )

回答欄 [ ]

18. 「アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携」に関しての一般的な意見をお聞かせ下さい。

(「アジア地球化学連合」を組織化することのメリット・必要性、組織形態、または組織化の必要性がないこと、オセアニアも含めたアジア / オセアニア地球化学連合へ広げる方が良いなど、皆様の御意見をお願い致します。数年毎のシンポジウム開催による

連携強化，GJを「アジア地球化学連合」のOfficial Journalにする，などの具体的な御意見も歓迎致します。）

ありがとうございました。

引き続き，「地球化学における環境学」についてのアンケートに，御協力をお願い致します。



#### 「地球化学における環境学」アンケート

本研究連絡委員会では2001年12月に，「環境学における地球化学のありかたについて」のアンケートを実施し，地球化学を主たる研究分野としていない環境学関連研究者の視点では，地球化学がどのように捉えられているか，即ち，環境学から期待される地球化学を調査しました。その結果は，日本地球化学会の和文誌「地球化学」の37巻133～153ページ（2003年）に報告しました。

上記のアンケート結果をうけて，本研究連絡委員会では，「環境学に貢献できる地球化学」または「地球化学研究における環境学研究の位置付け」を検討する際に，地球化学会会員の方々の“内からの意見”を参考にいたしたく，本アンケートを実施いたします。御協力よろしくお願い致します。

#### 「地球化学における環境学」アンケート

該当部分の回答欄[]に番号を御記入下さい。

「その他」とお答えの場合は，[ ]または( )内にお答えを記入下さい。

設問1～5は，分野外の方へのアンケートと類似の設問です。

回答が難しい設問については，空欄のまま返送頂いても結構です。

1．環境学をどのようにお考えでしょうか，複数お答え頂いても結構です。

(1)人間と自然環境/地球環境のかかわりを中心に研究・体系化・教育する。

(2)人間と都市人為環境のかかわりを中心に研究・体系化・教育する。

(3)人間と社会環境のかかわりを中心に研究・体系化・教育する。

(4)人間の自然環境 都市人為環境 社会環境の中でのかかわりを中心に研究・体系化・教育する。

(5)その他( )

(6)いまだ明確な位置付けを持っていないが今後の学問の展開とともに確立すべきもの。

回答欄 [ ]

2．貴機関で「環境学」を御研究あるいは教育をされていらっしゃるでしょうか。

その分野は旧来の学問分野でいえばどの軸足を置いたものでしょうか。

2.1．研究者が，

(1)いる( 人くらい)，(2)いない。

回答欄 [ ]

2 2 . 2 1で「いる」場合，その研究分野と概略人数は，

- (1)人文学( ) (2)社会科学( )  
(3)数学・天文学・物理学( ) (4)地球科学( )  
(5)化学( ) (6)生物学( ) (7)工学( )  
(8)農学( ) (9)医歯薬学( ) (10)情報学( )  
(11)環境学( ) (12)その他( )

回答欄 [ ]

2 3 . 大学(教育機関)に所属している場合，「環境学」をテーマにした講義が開かれていますでしょうか。

- (1)開かれている (2)開かれていない

回答欄 [ ]

2 4 . 2 3で開かれている場合，その分野と概略コマ数は，

- (1)文科系( ) (2)文科系寄り (3)理科( )  
(4)理科寄り( )

回答欄 [ ]

3 . 「地球化学」についてお答え下さい。

3 1 . 水や岩石などの「分析」が中心になっている。

- (1)そう感じる (2)そうは思わない (3)どちらでもない

回答欄 [ ]

3 2 . 大気や水・海洋の研究が多い。

- (1)そう感じる (2)そうは思わない (3)どちらでもない

回答欄 [ ]

3 3 . 岩石や鉱物を通じた地球内部の研究が多い。

- (1)そう感じる (2)そうは思わない (3)どちらでもない

回答欄 [ ]

3 4 . 地球化学は，人間生活に関連した分野が多いと思いますか，それともロマンをかき立てる研究が多いと思いますか。

- (1)人間生活に関連 (2)ロマンを追う (3)両方ある (4)どちらもない

回答欄 [ ]

3 5 . 環境学に含まれそうな地球化学の研究は，どれほどなされていると思いますか。

- (1)たくさん研究されている (2)いくつか該当する  
(3)全くない

回答欄 [ ]

4 . 貴機関に「地球化学」を御研究あるいは教育をされている方がいらっしゃいますか。

- (1)いる(約 人) (2)いない

回答欄 [ ]

上記4で「いる」とお答えいただいた方へ，4 1から4 3にお答え下さい。

4 1．貴機関で環境教育が行なわれている場合に，お答え下さい。

貴機関の環境教育において地球化学はどのように位置づけられていますか。

- (1)環境教育の中心的部分を担っている。
- (2)別にある中心的な環境教育の周辺を補完する教養的役割を担っている。
- (3)多くの羅列的な環境教育のひとつとして位置付けている。
- (4)その他( )

回答欄 [ ]

4 2．貴機関で環境教育が行なわれてない場合にお答え下さい。もし，環境教育を行なうとした場合に，地球化学をどのように位置づけますか。

- (1)環境教育の中心的部分とする。
- (2)別にある中心的な環境教育の周辺を補完する教養的役割とする。
- (3)多くの羅列的な環境教育のひとつとして位置付ける。
- (4)その他( )

回答欄 [ ]

4 3．貴機関において不足する地球化学の分野があれば，それはどのような内容でしょうか(複数回答可)。

- (0)ない (1)同位体や元素分析を中心にした分野 (2)生物や有機物関連分野
- (3)大気や水に関連した分野 (4)岩石やマントル物質を扱う分野
- (5)隕石など宇宙物質を扱う分野 (6)人為活動を調べる社会地球化学
- (7)計算機によるシミュレーション地球化学
- (8)その他( )

回答欄 [ ]

上記4で「いない」とお答えいただいた方へ，4 4にお答え下さい。

4 4．定員と予算の余裕があれば，取り入れたい地球化学の分野はどのような内容(研究上，あるいはカリキュラム上)でしょうか(複数回答可)。

- (0)ない (1)同位体や元素分析を中心にした分野 (2)生物や有機物関連分野
- (3)大気や水に関連した分野 (4)岩石やマントル物質を扱う分野
- (5)隕石など宇宙物質を扱う分野 (6)人為活動を調べる社会地球化学
- (7)計算機によるシミュレーション地球化学
- (8)その他( )

回答欄 [ ]

5．環境学の教育はどうあるべきか，どこに重点を置くべきか，お考えをお聞かせ下さい。

5 1．自然科学を含むから，物理/化学法則で説明がなされ得よう体系化に努める。

- (1)重要 (2)やや重要 (3)可能なら試みる (4)さほど必要でない
- (5)無駄なことだ

回答欄 [ ]

5 2. 人間が中心だから，人文学（哲学や史学など）に沿って体系化に努める。

- (1)重要 (2)やや重要 (3)可能なら試み (4)さほど必要でない  
(5)無駄なことだ

回答欄 [ ]

5 3. 人間活動の結果としての環境問題だから，社会科学（法学，経済学，政治学など）の原理を規範として体系化に努める。

- (1)重要 (2)やや重要 (3)可能なら試みる (4)さほど必要でない  
(5)無駄なことだ

回答欄 [ ]

5 4. 「環境学」の確固とした原理や法則は無いが，広範な研究／教育の間に新しく見出すよう努める。

- (1)重要 (2)やや重要 (3)可能なら試みる (4)さほど必要でない  
(5)無駄なことだ

回答欄 [ ]

5 5. これまで，各人が研究してきた基盤分野に立脚して，環境学を体系化する。

- (1)重要 (2)やや重要 (3)可能なら試みる (4)さほど必要でない  
(5)無駄なことだ

回答欄 [ ]

6. 地球化学は環境学に貢献できると思いますか。

- (1)大いに貢献できる (2)ある程度貢献できる (3)あまり貢献できない  
(4)貢献は難しい  
(5)その他 ( )

回答欄 [ ]

7. 地球化学のどの分野が，環境学に貢献できると思いますか。（複数回答可）

- (0)ない (1)同位体や元素分析を中心にした分野 (2)生物や有機物関連分野  
(3)大気や水に関連した分野 (4)岩石やマントル物質を扱う分野  
(5)隕石など宇宙物質を扱う分野 (6)人為活動を調べる社会地球化学  
(7)計算機によるシミュレーション地球化学  
(8)その他 ( )

回答欄 [ ]

8. 地球化学のなかで環境学がしめる割合はどの程度だと思いますか。

8 1. 現状において。

- (1)かなりの割合を占めている (2)小さな割合である  
(3)非常に小さな割合である (4)その他

回答欄 [ ]

8 2. 今後はどうあるべきだと思いますか。

- (1)かなりの割合を占めるべきである



(2)小さな割合が良い (3)非常に小さな割合が良い (4)その他  
回答欄 [ ]

御協力ありがとうございました。

## ニュースへ記事やご意見をお寄せください

皆様の情報・原稿をお待ちしています。地球化学に関連した研究集会，シンポジウムの案内，人材募集，書評，研究機関の紹介など何でも結構です。編集の都合上，電子メール，フロッピー（マックもしくは Dos/V いずれでも結構です）での原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2004年12月上旬頃を予定しています。ニュース原稿は10月上旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

### 編集担当者

米田成一

〒169 0073 東京都新宿区百人町3 23 1  
国立科学博物館理工学研究部

Tel : 03 3364 7142 , Fax : 03 3364 7104

E-mail:s-yoneda@kahaku.go.jp

高橋和也

〒351 0198 埼玉県和光市広沢2 1  
理化学研究所加速器基盤研究部

小林貴之（ホームページ）

〒156 8550 東京都世田谷区桜上水3 25 40  
日本大学文理学部

